



まちめぐりマップ

根室市

日本遺産「鮭の聖地」の物語



「鮭の聖地」を訪ねる夏のおすすめコース

①根室市歴史と自然の資料館



根室の外交の歴史や、この地域で見ることのできる鳥・海獣についての情報が得られる資料館。貴重な遺跡の出土品やジオラマが展示されており、根室半島のチャシ群等を訪れる際の事前学習にピッタリ。

TEL : 0153-25-3661



③市街地散策



「碓氷勝三郎商店」は、根室唯一の酒造で、120年以上の歴史をもつ。今も残る酒蔵は大正初期に建築されたレンガ造。市街地では徒歩で文化財巡りを楽しむことができる。

根室には、明治20年、当時北海道では珍しかった西洋料理店があり、早くから洋食文化が入っていた。昭和30年代からユニークなワンプレートの洋食が受け継がれ、地域の食文化として根付いている。

エスカロップはそうした洋食の一つ。様々な情報が入ってくる古い港町ならではの食文化も楽しんでほしい。



中標津空港

約1時間40分

①根室市歴史と自然の資料館見学（約30分）

約15分

②金刀比羅神社参拝・境内解説（約40分）

約5分

③市街地散策

宿泊

④ノツカマフチャシ跡（約40分）

約10分

⑤ヨンネモトチャシ跡（約30分）

約5分

⑥納沙布岬灯台（約40分）

約40分

⑦市街地で昼食

約1時間40分

中標津空港

②金刀比羅神社



全国・世界とつながる「国後・択捉航路」を開き、北海道と北方領土、全国の行き来だけではなく、北海道の発展を支え続けた高田屋嘉兵衛。

彼が創設した金刀比羅神社には、高田屋嘉兵衛の銅像があり、その功績を知ることができる。

④ノツカマフチャシ跡
⑤ヨンネモトチャシ跡



根室半島チャシ跡群として国指定史跡に指定されている、チャシ群。16世紀～18世紀ごろに築かれたといわれるこれらのチャシは、アイヌの砦や祭祀の場、見張り場等として使われていたといわれ、人の行き来が頻繁にあったことがうかがわれる史跡。

⑥納沙布岬灯台



本土最東端の岬に建つ納沙布岬灯台は、1872年に設置された道内初の洋式灯台。当時から霧が濃い航海の難所として知られ、日本とアメリカとの往来に多くの貨物船が航行していたため、明治政府により造られた。目前には北方領土の貝殻島などの島々や、6月～10月までは昆布漁の様子を見ることができる。

「鮭の聖地の物語」を味わう

漁業資源に恵まれ多くの人が漁師を生業とするまち・根室。根室ならではの食の楽しみが多くあるが、古来から産業として地域を支えた「昆布」を生かした新しい食が登場している。根室地域で昆布が産出されるようになったのは1800年代前半。その後、鯨や鮭漁が不振になつても安定した生産高を維持し、明治後期、昆布が多くの漁民を支えた時期があった。近年、この昆布を使った巻き寿司が登場した。「根室さんまロール寿司」「根室いわしロール寿司」だ。昆布の地産地消を目指して開発されたこの寿司は、根室らしい巻き寿司として、根室のサンマとマイワシを使い、棒寿司のように仕立て、海苔巻きの海苔の代わりに根室の棹前昆布で巻く。ほぼまい昆布しようゆで食べれば根室の旨味尽くしの寿司になる。また、根室市では4～8月に獲れる「時知不（ときしらず）」と呼ばれる鮭が鮮魚店に並ぶ。産卵のために秋に南下する鮭と違い脂の乗りが別格だ。特別な鮭をぜひ味わってほしい。

※「鮭の聖地」の食・お土産は、裏面の「」、「」のお店で！



写真提供：根室さんまロール寿司推進協議会

街めぐりの情報はこちら！

■根室市観光協会

TEL : 0153-24-3104 FAX : 0153-24-7811

mail : info@nemuro-kankou.com

WEB : http://www.nemuro-kankou.com/



■根室市観光インフォメーションセンター

根室市光和町2丁目10番地

TEL : 0153-24-3104

日本遺産「鮭の聖地の物語」とは

「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～は、北海道根室管内の標津町、根室市、別海町、羅臼町に残された文化財によって証明される、根室海峡沿岸の歴史文化のストーリー。「鮭の聖地」の特徴は、毎年秋に繰り返される鮭の遡上という偉大な自然のサイクルが、一万年以上にわたって人々の営みを支え続けてきたことにある。太古の昔から人々を支え、そして今もなお根室海峡沿岸地域の基幹産業として位置づけられている鮭。鮭に笑い、鮭に泣いた人間たちの壮大なドラマ、それが「鮭の聖地」の物語である。

根室市～全国・世界とつながる「港」まちの歴史文化

根室半島は三方を海に囲まれ、サケ類をはじめとする水産資源に恵まれる。この地理的特徴から、外来文化が入りやすく、6～9世紀には古代北方文化であるオホーツク文化の拠点として、また、江戸時代にはロシア人の進出拠点として、数々の歴史がいまに伝えられている。中世から近世にかけては、アイヌにより半島沿岸の入り組んだ湾入地形を利用した多くの湊とコタンが形成され、その痕跡であるチャシ跡が、半島一帯に数多く残されている。



ノツカマフチャシ跡

18世紀以降は、土地の特色を背景に、根室海峡沿岸や千島列島方面に向けた開拓拠点の「港」として大いに発展した。根室港からは根室海峡一帯で生産される缶詰製品や昆布など従来の海産物が出荷されていき、人、モノ、文化が活発に行き来し、市街地が発展した。半島に遺された歴史文化的な跡と豊かな港の今をぜひ辿ってみてほしい。



シャバーリングがノツカマフ経由でアッケシ上陸時の絵図
(ドイツ・ゲッティンゲン大学アッシュコレクション蔵)

2022年3月発行

発行元：根室管内日本遺産推進協議会

鮭の聖地メナシネットワーク

TEL : 0153-82-3674

(標津町ボーラー川史跡自然公園内)

WEB : http://www.heritage-of-salmon.com/



根室市

